

# 社会に開かれた教育課程を実現する地域連携(CS)事例ー岩手県大槌町の事例ー

## 取り組みの背景

- 東日本大震災津波で人口の約1割を失った大槌町は、震災後の急激な人口減少が大きな課題であった。またそれに伴い高校入学者も激減し(H20 120人→H31 42人)、学校の維持存続が危ぶまれる状況であった。
- 持続可能な復興を実現するための人材育成を急務の課題であるとし、大槌町と大槌高校が連携し、大槌高校魅力化構想会議を設置。復興の担い手を育成するためのカリキュラムの設計と連携体制の構築を期し、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に応募し地域魅力化型(全国20校)第1期に採択。令和元年度より地域と連携した教育の実現を図る取り組みがスタートした。

## 三陸みらい探究(5単位)

総合的な探究の時間を活用し、生徒自らの主体的な問い設定と実現のためのアクションを行うマイプロジェクトを実施。地域のリアルな課題に取り組むことで探究意欲を育む  
ex:防災行政無線の見直し、郷土芸能の再生・活性化

## 教科の学校設定科目(12単位)

英数国理社の5科目にそれぞれ探究の時間を設定。各科目で地域を教材とし、講師を招いての講演、フィールドワーク等を取り入れ、主体的に課題設定をする探究科目となっている。  
ex:おおつちラボ(理科)・くらしmath(数学)・まちづくり探究(社会)

### 上記の探究的なカリキュラム(※参考:社会に開かれた教育課程)の実現に向けて

大槌高校の取り組み

#### ①目標の共有

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有すること

#### ②資質・能力の明確化

これからの社会を創り出していく子供たちに求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと

#### ③地域との連携協働

教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり、学校教育を学校内に閉じずに実現させること

#### ①地域との熟議を実施

地域と大槌高校生に身につけてほしい力、大槌高校が目指すべき高校像について生徒がファシリテート役となり共有。住民100人以上が集まり、高校への期待の大きさを教職員も実感した。



#### ③ルーブリックへの接続

地域と設定した目指す人材像「自立(意志がある)協働(仲間とともにある)創造(逆境から創り出す)」を教員のWGがルーブリックに落とし込み、総合探究の評価を行う。

評価項目	評価基準	評価方法	評価時期
① 自立(意志がある)	自分の考えや意見を明確に述べ、積極的に発言する。	授業観察、面接	授業中、面接時
② 協働(仲間とともにある)	相手の意見を尊重し、協力して課題を解決しようとする。	授業観察、グループワーク	授業中、グループワーク時
③ 創造(逆境から創り出す)	既存の枠組みにとらわれず、新しいアイデアを提案する。	授業観察、発表会	授業中、発表会時

#### ②大槌高校魅力化構想(骨子)の策定

生徒や地域、教職員で行った熟議から、目指すべき高校のコンセプトを「大きな海を航る大槌を持つ」とし、目指す人材像、学校の目指す姿などを構想(骨子)として策定。教育課程の変更もこの議論が基に



#### ④地域の関わりの変化

熟議や町内への広報等を通して大槌高校の育てたい人物像を地域が深く理解し、高校生との関わり方についても主体性を尊重するなど、育てたい資質能力に合った関わり方となり、町に変革を起こす成果にも。



#### ⑤コンソーシアム体制(構想会議)の構築

連携協働を行うコンソーシアムとして構想会議を設置。ヒト・モノ・カネなどの拡充をどのように行うか、教育課程のあり方等についてそれぞれの視点からの検討を行う機関。学校運営協議会への移行検討中。



メンバー:町長、東大海洋研教授、町議会議員、議員、県議会議員、商工会長、PTA会長、地域NPO、民間企業、同窓会長、小中PTA会長、中学校長、副町長、教育長、教育委員会指導主事

オブザーブ:町総務課、企画財政課、産業振興課等

事務局:岩手県立大槌高校、大槌町教育委員会

## 上がった成果

- ①入学者数:H29 67名→H30 53名→R元 42名→R2 53名→R3 61名 増加(町内進学率が改善)
- ②国公立大学進学者増

# 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的取組事例（岩手県大槌町）

## 小中一貫教育を核とした教育課程（ふるさと科）の実施と学校の課題解決に向けた体制の構築

東日本大震災後、学校の課題解決に向けて小中一貫教育、CSを導入

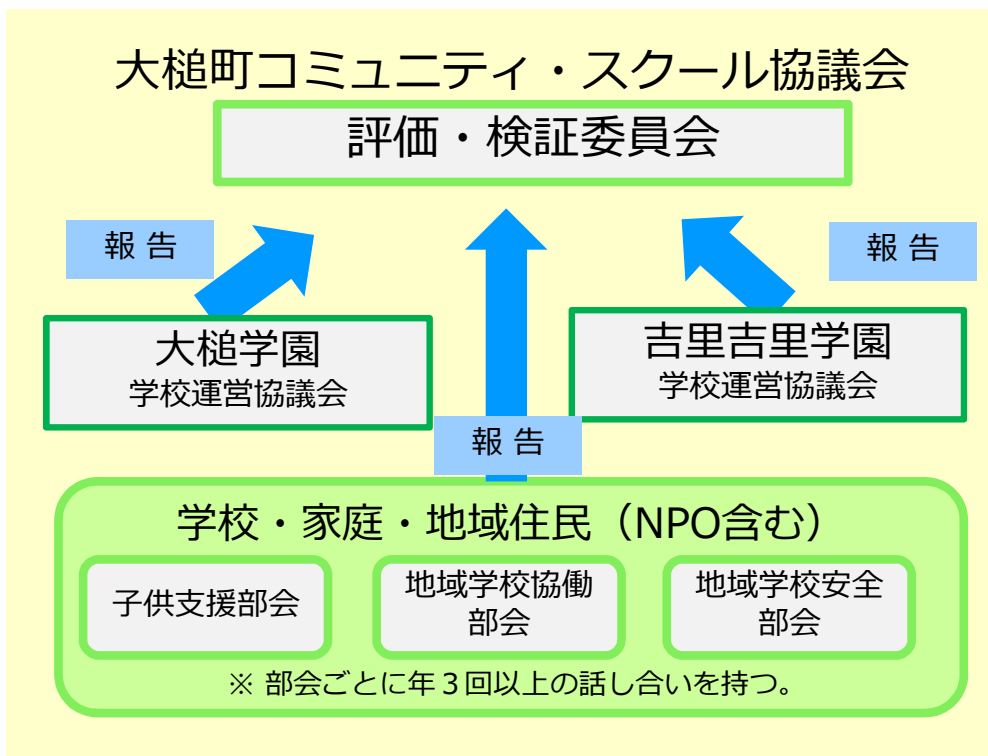
- 教育環境の復興
  - 安心して学べる新しい学校の建設
  - 9年間の継続性を持った心のケア
- 学校だけでは解決できない課題解決への取組
  - 学校・家庭・地域住民の連携・協働でつくる教育

<大槌町の小中一貫教育>



・次代を背負って立つ子供たちを育て、魅力的な地域・学校づくりを推進するため小中一貫教育の取組として「ふるさと科」を全学年に設置。  
 ・生活科と特別活動の一部、総合的な学習の時間の全てを充てて実施

- ① 地域への愛着を育む学び
  - ・地域の歴史や特産、郷土の文化等の学習
- ② 生き方・進路指導を充実させる力を育む学び
  - ・職場体験活動、沿岸地区の仮設店舗での体験学習の実施等
- ③ 防災教育を中心とした学び
  - ・「いきる・かかわる・そなえる」防災学習



委員会名 部会名	主な活動内容（協議内容）	主なメンバー
評価・検証委員会	○学校運営協議会の報告 ○各部会の今年度の方針 ○目標設定・効果測定について	学校運営協議会長、PTA会長・副会長、教育委員、各校長、各部会長、教育委員会等
子供支援部会	○放課後や長期休業の子どもの居場所づくりや学習支援について	教員、保護者、地域住民、保健福祉課、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育委員会、NPO等
地域学校協働部会	○「ふるさと科」の推進について ○地域ボランティアについて	教員、保護者、地域住民、学校支援地域コーディネーター、商工会、教育委員会、NPO等
地域学校安全部会	○通学路交通安全プログラムの実施 ○学校安全計画の検討	教員、保護者、警察、消防署、消防団、三陸国道事務所、沿岸広域振興局道路整備課、大槌町役場職員、教育委員会等

本取組が復興に向かい日々変化する地域のコミュニティのつながりとなり、家庭・地域の教育力と生活環境の向上を図っていくことが期待できる。